

空海が法を求め命がけで辿った道 中国の「四国遍路」として賑わう

空海以来1180年を経て
追体験された「空海ロード」

18歳で高野山に登り、弘法大師空海、
密教と出合ってから、ひたすらに「空



静氏は、「空海が辿った道を追体験してみると、入唐した空海に比べて日本人は少し日本流でありすぎるようにも感じます。もっと日本を出て、自分をひらいていくのも良いことだと思います」と語る。

海」を求めてきました。長年、空海が書いたものを研究するうちに、あることに気づきました。「空海の原因は入唐求法にあるというのに、空海以後の弟子や研究者の誰も、空海が命がけで挑んだ求法の道を辿っていない」。空海は多くの文章を残していますが、入唐求法のルートについては記録を残していません。空海を知るヒントはここにある、そう考えたのが30余年前のことでした。

空海が804年に漂着した福建省の霞浦（赤岸鎮）から、長安（西安）までは約2400キロ。これは、四国遍路の約2倍にあたります。しかし、私が空海の辿った道を目指そうとした当時、福建省から浙江省杭州までの道は未開放地区で、自由に旅行することはできませんでした。

やがて「弘法大師御入定千五百年御遠忌」（1984年）という時がきました。その記念行事として「空海・長安への道」の踏破を高野山大学に申請したところ、当時の中曽根康弘首相が日中友好の観点から注目し、中国政府に協力を依頼してくれました。諸問題は一挙に解決し、全行程を歩けることになったのです。私は団長となり、僧侶5人と記者3人と共に、空海から1180年ぶりに入唐求法の道を辿ったのです。

その後、部分的に調査しながら、この道に五十数回足を踏み入れてきました。そして「空海入唐千二百年」の年にあたる2004年、「空海追体験の巡礼道」として公開し、「シルクロード」にあやかり「空海ロード」と命名しました。現在はすべて車で行くことができます。

巡礼道として公開したのは、3つの意図がありました。1つめは、日本の僧や信徒の方々に「空海の大きさや国際性」を知ってほしかったということ。2つめは、中国の人々に対し、「唐



空海ロード「運河コース」に含まれる大明寺にて。大明寺には、空海が唐にいた31～33歳頃を想定した「修行大師像」が安置されている。

大明寺にて

の時代に、漢字文化圏を十分に理解していた日本人に空海という人がいた」と知ってほしかったということ。3つめは、現代において、空海をいただいて行動することが、日中の文化交流になると考えたからです。

中国で高まる空海への関心 仏教経済の発展も著しい

「空海ロード」を歩いてから30年、急激に変化していく中国を、空海をいただきながら直に見てきました。

中国は経済的に豊かになり、人々は「中国人である自分とは何か」を考え始めました。結果、人々の間で歴史の見直しが起こり、世界的に見て素晴らしかった唐代文化とその象徴である密教に注目が集まりました。

しかし、中国では845年に武宗による大破仏が断行され、仏教は途絶えてしまった。禅系統と浄土系統は再興されていますが、密教は法を伝える阿闍梨も道具も場所も全部なくなって途絶えたままです。

そこで注目されたのが空海です。空海は唐代密教の一番いいところを持って帰った。つまり唐代密教そのものが日本にはある。いま、中国では唐代文化をテーマとした国際学会がとても多い。学問としての空海の思想が盛んに研究されているのです。

日本での中国の話題は、経済や軍事のことが中心で、意外と知られていないのが仏教経済の発展です。中国各地の寺院は中流階級以上の人々が信徒になったことで立派に再建され、賑わっています。

私は30年間、毎年2回「空海ロード」を日本の信徒を連れて巡礼しています。が、それを知った中国の人々が毎回20～30人ついてくるようになりました。そして今、空海ロードの各地が観光地化され、中国の人たちが空海ロードを四国八十八ヶ所のように参拝するようになりしました。今、空海ロードには11ほど空海修行像が建っており、それを拝みつつ巡礼道を行くのです。空海ロードは、中国人の空海信仰として動き出し、空海は現代に甦っているのです。